

# ヘリコバクター・ピロリ除菌治療

---

ヘリコバクター・ピロリの除菌は胃・十二指腸潰瘍の治癒だけではなく、胃がん・萎縮性胃炎・胃MALTリンパ腫・胃過形成性ポリープ・特発性血小板減少性紫斑病の減少や治癒に寄与することが分かっています。

「ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎」に対する除菌治療が平成25年2月22日より保険診療で可能となりました。ただし、下記の(1)および(2)の条件を満たす必要があります。

(1) ヘリコバクター・ピロリの感染を以下のいずれかの方法で確認する。

迅速ウレアーゼ試験、鏡検法、培養法、抗体測定、尿素呼気試験、糞便中抗原測定

(2) 胃内視鏡検査により、慢性胃炎の所見があることを確認する。

※現時点では当院において胃内視鏡検査を行った方にのみ治療を行っております。他施設で診断された方は、診断を受けた施設にご相談いただくようお願いいたします。

## 感染診断

当院では以下の方法で感染診断を行っています。

### 1) 鏡検法 (ギムザ染色)

胃内視鏡時に生検（診断のために胃の組織を採取すること）を行った場合には、病理標本で感染診断を行います。富山市医師会健康管理センターに依頼し検査していますが、センターではギムザ染色を行い判定しています。

### 2) 糞便中抗原測定

検便でヘリコバクター・ピロリの感染診断を行います。ガイドラインでは除菌前後にかかわらず感度・特異度ともに良好と評価され、信頼性の高い方法です。

### 3) 迅速ウレアーゼ試験

胃内視鏡時に胃の組織を採取し検査を行います。感染診断には有用ですが、除菌判定では信頼性にやや欠ける方法です。

### 4) 抗体法 (血液)

血液検査でヘリコバクター・ピロリの抗体を調べ感染診断を行います。ただし、除菌判定には不適當と考えられています。当院では血液中の抗体価を検査していますが、尿中抗体価を調べる方法もあります。

---

## 治療

除菌治療には一次治療と二次治療があります。

当院では一次治療には**ランサップ400**、二次治療には**ランピオンパック**を1週間処方しています。

一次治療の後、4週間以上間隔をあけて除菌判定の検査を行います。除菌失敗であれば二次除菌に移行します。一次除菌の成功率は約70%です。

---

## 二次除菌

除菌が失敗した場合、健康保険では1回のみ再除菌と除菌判定検査を行うことが認められています。

---

**ガイドライン** ヘリコバクター・ピロリの診断および治療については日本ヘリコバクター学会より「H.pylori感染の診断と治療のガイドライン 2009 改訂版」が発行されています。

**胃がんに対する効果** 胃がんの予防の観点からは、年齢が若いほど除菌が有効であると考えられています。ただし、上限は決まってはいません。

**除菌の副作用と再感染** 最も多いものは下痢・軟便で10～30%、味覚異常・舌炎・口内炎が5～15%、皮疹2～5%。高齢者で副作用が多いとの報告はありません。日本では除菌成功後に逆流性食道炎の発生もしくは悪化が3～19%と言われています。再感染率は年2%以下と推測されています。

**ランサップ400  
一次除菌**

**ランピオンパック  
二次除菌**

**堀地 医院**  
 930-0083 富山市総曲輪4-4-4 1  
 TEL 076-421-3400  
 URL: <http://www.horichi-clinic.com>

2013.3.17